

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

176号 2016年7月24日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「しかし、神の言葉はつながっていない」

——フィリピの信徒への手紙第1章12～14節——

牧師 渡邊 義彦



兄弟たち、わたしの身に起ったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。

(新共同訳聖書)

使徒パウロは、福音がヨーロッパに渡る幻を示されてアジアの地を離れギリシャ、マケドニアの地を踏みました。このヨーロッパ伝道、最初の建設教会がフィリピ教会でした。ここで言う教会建設は、単に教会の建物の建設を言うのではなく、福音を信じる者たちが教会に集められて礼拝と伝道がはじまることです。キリストへ献げる礼拝と、キリストを宣べ伝える伝道を開始した群れに、一人、さらにまた一人と福音を信ずる者たちが増し加えられてゆくことで、福音を信じる者たちの群れが目に見えるかたちで明らかになってゆくことが、ここで言わんとしている教会建設です。使徒がこの手紙に記しますように、わ

た私たちの本国は天にあり、と信ずる者たちが産み出されることでこの建設が続いてゆくのです。

おそらく、教会建設の土台が据えられて5年と経たないうちに、パウロは、フィリピ教会にこの手紙を送っています。この僅かな年月の間に教会として固有の問題に直面するほどに、また幾人もの指導的な立場に立つ人々を擁するほどに教会建設が進んでいたのです。手紙をフィリピ教会に送った理由は、おそらく後に3章2節から記されているような、強い語調で語られている教会を混乱させる何らかの問題があったゆえだろう、と思われま

す。教会建設が進んでゆく中では、このような問題や軋轢、福音の前進を阻もうとする勢力、力は避けられず、福音が前進するゆえの摩擦はどうしても起こります。このようなことが生じるのは、教会建設が進んでいることの証でもあり、福音が持っている本質でもあります。躓きに満ちた十字架を信じ、まだ誰も経験していない復活を信ずるのです。信仰は、世との摩擦を避けることができません。

使徒パウロは、この手紙を記している現在、フィリピとは海を挟んで対岸、アジアの西の

端エフェソで投獄され監禁されていると考えられています。牢の中でフィリピ教会の困難な状況を知り、また教会から送られてきたパウロへの援助、応援を受け取って手紙を送るのです。自由に教会に赴くことができません。またそうでなくても、パウロたち伝道者は、定住する牧師のようにその土地に長くとどまることはありませんでした。教会の基礎が据えられると、先に先に伝道地を広げるために進んでゆきます。そして、各地に建てられたそれぞれの教会は、自分たちだけでは解決が難しい問題が持ち上がると、使者なり、手紙なりを、パウロたち、指導者たちのもとへと送り助言を仰いだのです。

パウロが、教会から様々な課題を投げ掛けられ問われても決してぶれていないのは、どのような事態、どのような課題、どのような困難が起ころうとも、キリストを宣べ伝える、という一点に絶えず集中していることで告げることが決してぶれないのです。伝え方は、ときとして叱責であったり、慰めや励ましの言葉であったり、ときとしては妥協にも思える留保であったりします。しかし、どれもが、キリストを宣べ伝える一点に集中しています。

パウロは、エフェソで捕えられ牢獄に監禁されたことが、かえって福音の前進に益となったと言うのです。パウロが捕らえられる理由は、いつも福音を宣べ伝えているからです。投獄という苦しみに遭いながら、しかし、パウロは、このことさえも福音の前進に、伝道が進められて救われる者たちが起こされて、神に栄光が帰されるのであれば、これを喜ぶ、と言うのです。

パウロが投獄されたことを知って、ある人々は、恐れることなく、かえって励まされ福音に対する確信を強くされて、福音をますます宣べ伝え、神に仕えることを明らかにし

てゆきました。またある人々は、おそらくパウロの働きを羨み嫉んでいた人々だったのではないか、と思われそうですが、それでも福音には反対していなかった人々です。この人々も、パウロには賛成しない気持ちを抱いたまま、むしろ、監禁されているパウロを苦しめよとの嫉みの思いを持って、しかし、よりいっそう、福音を宣べ伝えはじめている。

エフェソの町に起っている、福音を宣べ伝えるこの二つの陣営を目の当たりにして、パウロに味方し、好感を持ってパウロを支持している人々の働きだけでなく、パウロにライバル心を燃やし、嫉むほどの思いを持ち、パウロに反目しながらも、しかし、その反動でよりいっそう福音を宣べ伝えはじめた人々の働きをも、使徒は、キリストが宣べ伝えられるチャンスだ、と見ています。

パウロは、たとえ監禁されて身体における自由を奪われようとも、そこに神の御心があるのならば、必ず道を開かれることを信じてきたし、事実そのように道が必ず開かれることを経験してきました。パウロの確信は、神の言葉は、決して人の鎖や人の妨げや妨害などでは、その前進を決して止められない、という確信です。神の言葉は、神の望まれるところを必ず成し遂げる、という確信です。神は、罪人の救いを望んでくださいます。そして、神は、罪人の救いを成し遂げてくださいます。御言葉に対する信頼は、神の遂げてくださる救いへの信頼、確信です。



☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと

◇6月は伝道月間

6月5日(日) 礼拝説教「あなたを決して忘れない」柿ノ木坂教会 渡邊義彦牧師

6月12日(日) 礼拝説教「うめきの中に働く神の助け」

東京神学大学名誉教授・銀座教会協力牧師 近藤勝彦牧師

礼拝後、愛餐会が行われました。

6月19日(日) 礼拝説教「人生の分岐点」柿ノ木坂教会協力牧師 松下恭規牧師

6月22日(日) 礼拝説教「自分の家に帰りなさい」梅ヶ丘教会 広田叔弘牧師

礼拝後、愛餐会が行われました。

◇7月3日(日) 礼拝後、2015年度教会会計決算報告会が開かれました。

*伝道月間の報告を次ページ以降に掲載しました。

◆これからあること

◇教会学校 夏の行事

7月31日(日)から8月2日(火) 小学科・J.C 丹沢サマーキャンプ

8月28日(日) 幼稚科ディキャンプ

9月4日(日) J.C 夕涼み会

◇ベテル幼稚園夏の行事

夏期休暇 7月16日～9月1日

8月25日(木) 夏のお楽しみ会

◇9月25日(日) 「高齢の方などを配慮した礼拝」

◇9月25日(日) 13:30～16:30 南支区教会学校合同運動会 (於)玉川聖学院体育館

◇10月10日(月・体育の日) 創立80周年記念バザー

◇10月2日(日) 10:30～ 柿ノ木坂教会創立80周年記念礼拝

礼拝後すぐに皆さんで記念写真を撮り、引き続いて簡単なお茶の会を開く予定です。

9月末発行予定の教会報177号は80周年記念号です。

皆様に80年の節目にふさわしい原稿をお願いする予定ですのでご協力ください。

集会出席統計(月平均)

	2016年	
	5月	6月
主日礼拝	87.0人	89.0人
聖書と祈り会	16.0人	14.8人
教会学校*	118.2人	104.0人

*保護者、教師を含む

	5月1日	6月5日
聖餐夕礼拝	10人	14人

第1主日開催

2016年伝道月間報告 一伝道委員会一

かつ しんげい
葛 沁芸

今年も皆様のご協力のお陰で、伝道月間を無事にとり行うことができました、大変感謝です。拙文ながら、伝道委員会を代表しましてここにご報告をさせていただきます。

今年はこちら数年、毎年行っていたチャーチ・コンサートはありませんでしたが、例年のように4週連続で特別伝道礼拝を行い、そのうち2回は外部から先生をお招きして説教奉仕をしていただきました。

6月12日(日)の近藤勝彦牧師(東京神学大学名誉教授、日本基督教団銀座教会協力牧師)、6月26日(日)の広田叔弘梅ヶ丘教会牧師のご奉仕による礼拝の後にはそれぞれ愛餐会を行い、6月12日(日)は男11名、女22名、合計33名、6月26日(日)は男14名、女22名、合計36名もの出席者がありました。

近藤先生を迎えての愛餐会では、参加者からの質問に近藤先生がお答えになり、召命について、平和の実現へ向けて私たちがすべきことについて等々、豊富なエピソードを交えながら様々な興味深いお話をして下さったことが印象に残りました。和やかな愛餐会を持つことができました。



6月12日・近藤先生をお迎えての愛餐会



6月26日 広田叔弘牧師の説教

また、広田先生を迎えての愛餐会は、先生のユーモラスな一面にも触れることができた、楽しい会でした。広田先生のお説教に関しての感想や質問が多くあり、「伝道に生きる」こと、「福音に生きる」ことに関して、励まされるようなお話をしていただけました。また、柿ノ木坂教会に在籍していた際の、神学生時代の「ここだけの話」で皆様を楽しませて下さいました。

両先生、また愛餐会参加者の皆様にお礼申し上げます。

伝道委員としましては、駅貼りを見て来られた方がお二人(近藤牧師の時、女性、松下牧師の時、男性、どちらも30~40代)も、いらっしゃったことは嬉しい限りでした。神様の御計らい、恵みに感謝です。この一ヶ月を通じて、伝道について改めて考えさせられる思いがいたしました。伝道月間は終了いたしました。そうであるなしに関わらず、私たちが日々を「伝道に生きる」ことが大事なのだと感じました。

* 次ページに愛餐会での様子をお目にかけます。

伝道月間・愛餐会の一コマ



身振りも大きくお話になる近藤先生（6月12日）



広田先生を囲んだ愛餐会の様子（6月26日）



広田先生を囲んで
真面目な質疑応答から
次第に柿ノ木坂教会での神学生時代の
思い出話になり、
沸きました。
渡邊先生も楽しそう。
久しぶりにお見えになった引地姉もひとこと。



「み言葉に生かされ、高く賛美を歌う」

近藤 美恵子

【せん方つくれどもものぞみを失わず】

コリント後書 4 章 8 節

1979 年夫の急逝に際しては、“毅然として古武士の妻の様”と人に言われながら、誰も居ない時には泣きくずれ、食事も喉を通らない或る日、ふと口をついて出た聖句です。

聖書のどこにあるのかも浮かばぬまま、絶えず誦文の様に繰り返していました。それから数年、教会生活にも慣れ、順調に落ち着いた頃毎朝読む聖書の一節に、はたと立ち止まりました。

【わたしは植えアポロは水を注いだ。

しかし成長させて下さるのは神である】

コリント人への第一の手紙 3 章 6 節

差し延べられた神のみ手の大きさを思い、“私頑張って乗り切った”という自負を恥じ入るばかりでした。

【誇る者は主を誇れ】

コリント後書 10 章 17 節

【わが恵み汝に足れり】

コリント後書 12 章 9 節

どれも知っている筈の聖句。それは必要な時に力強く迫ってくる。聖書とは不思議な書物です。

「春は緑の匂いめでたく

夏は木陰に暑さ忘らる

秋の夕べも 冬の朝も

眺めゆかしき庭の老松」

母と二部で歌うこの歌の趣を、三年生の私はどれ程分かっていたのでしょうか。

「見る人の心心に任せおきて

高嶺に澄める秋の夜の月。

水鳥の声も身にしむ池の面に

さながら凍る冬の夜の月」

(春、夏の月も見事な歌詞です)。

母に教えられた歌の数々は、格調高く子供ながらに涙ぐみ、母と歌う時は本当に幸せでした。おぼろに神を感じていた、と言ったら穿ちすぎでしょうか。でも何かが私の中で膨らんでいったのは確かです。

1939 年、女子学院に入学し、朝毎の礼拝で歌った讚美歌、聖書のお話し。初めてキリスト教に触れた若い日の、あの心の揺らめきを文字にする術を知りません。

1931 年版、54 年版、讚美歌 21 と三代の讚美歌に親しみ、沢山のよい歌に巡り合いましたが、その時自分が立たされた場所によって、歌いたいものは異なります。傾向としては、あまりイケイケムードや、説明的ではなく、単純ですっきりした歌詞。流れがよく、ハーモニーの美しい曲、そこはかたく品高い賛美歌が好みです。

70 数年間いつも心から離れない曲があります。

【かみのお子のイエスさまは

ねむりたもうおとなしく

かいばおけのなかにも

うたぬ藁のうえにても。

うまがないて目がさめて

わらいたもうイエスさまよ

あしたの朝おきるまで

床のそばにおりたまえ】

1931 年版讚美歌 464 番のこの歌は、激しい空襲のさ中にも、喜びの日、哀しみの日にも自然に歌っている自分に気が付くのです。

【Away in a manger,

no crib for his bed,

the little Lord Jesus

laid down his sweet head,

I love thee, Lord Jesus!

Look down from the sky,
I love thee, Lord Jesus!
Look down from the sky,
And stay by my cradle
till morning is night】

英語で歌えば流れるようでした。

お生まれになったイエス様のお姿を単純に描き、余計な飾りも、オーバーな思い入れもない歌詞は美辞麗句にも勝り心に染みます。聖書に示された様々なイエス像、どのお姿も感動的ですが、私は飼葉桶の中で眼覚められ、にっこりされたそのイエス様が大好きです。

日曜学校で歌われたこの歌を坂田寛夫氏が「讃美歌 ころの詩」に取り上げておられると知り教文館に急ぎました。マルチン・ルーテルの生誕400年記念に作られたこの歌が、54年版には乗らなかった経緯、その他興味深い事が詳しく記してあります。

学校時代は讃美歌も女声四部合唱です。私は音域が高いのでいつもテノールをとりました。宗教班を作り、お昼休みにはチャペルに集まって讃美歌を歌いました。今も教会でメロディ譜を歌っていても、ついテノールに目がいきます。

一年生では、中田羽後先生にお習いした初めての外国の民謡、そのモダンなリズム、メロディに魅され、先生の翻訳、作詞された歌を楽しく歌いました。今では皆が知っているキャンプソングも、当時はなんと新鮮に感じられたことでしょう。

戦時中チャペルに憲兵が立った礼拝にも堂々と聖書を読み、大声で讃美歌を歌った得難い経験は、心弱い私の大きな力となりました。三谷民院長の揺るがぬ信念を思います。

【あなたもそこにいたのか、

主が十字架についた時】

讃美歌 21 の 306 番は、自分の罪の深さを思う時、ひっそりと歌います。ぐさりと胸に突き刺さるものがあり、この真摯な遜りこそあるべき姿との思いを深くします。

第二編 177 番には

【あなたも見ていたのか、

主が木にあげられるのを】

となっており微妙な違いがあります。曲、詩共アフロ・アメリカン・スピリチュアルとありますが、第二編にはない5番をどう考えたらよいのでしょうか？

夏の高原の朝の散歩には讃美歌、羽後先生の歌、母と合わせた歌が次々出てきます。いつも山裾の石に腰かけて祈るのですが、ある日朝靄の中から素敵な男性が馬に乗って現れた時はつい見とれて中断“神様お赦しを”とまた祈りの続きをした事もありました。受洗より 75 年、良きにつけ悪しきにつけ、どれ程の熱い涙を流して讃美歌を歌った事でしょう。

最後にもう一曲

【イエス君にありて ねむるこそよけれ】

54年版の477番を記します。このような安らぎの中に召されたいと願っております。山家のテラスで星空を仰ぎながら、小川貞昭先生が、「いざ死を前にしたら私もどうなるか分からない・・・」と仰いました。お側で文先生が明るく「アハハ」とお笑いになったのを思い出します。それから十数年、従容と旅立たれた小川先生は、きっとイエス様とご一緒に歩んで行かれたのでしょうか。

今は出なくなった声で皆様の足をひっぱるのではと、聖歌隊隊長の井沢浩一兄、榊田恒兄のお顔色を窺いながら、そして新しくご指導下さる孫のような石丸恵彦さんの、なんとも新鮮な指揮に若返って、聖歌隊にぶら下がっている 89 歳です。老いて一つ一つを神様にお返ししながら、今まで何と多くのものを頂いていたことかと感謝で一杯になります。

葬儀には皆様に歌って頂けたら嬉しゅうございます。ことによると、私も一緒に歌いだすかもしれません。その時はちょっとだけ昔の声に戻りたい・・・。

『神様、息絶えるまで歌いとうございます』

今月のメッセージ

- 7月のホームページ巻頭言から -

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかつたので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。

(新共同訳聖書・

マルコによる福音書第2章3~5節)

「4人の友人プロジェクト」というのを長老会に提案したことがあります。結局、乗り越えなくてはならない課題の多さに実現は見ませんでした。このプロジェクトは冒頭に掲げた聖書の出来事を基に考えたことでした。

健康や身体が支障となって長く礼拝を献げることができずにいる高齢の方々に何とか手段を整えて毎週日曜日の礼拝にお連れできないか、というものでした。移動手段、介護者、日時設定と急変更への対応、緊急時の救護対応、家族の理解等々、立案を担当した委員会が悲鳴を上げてしまいました。提案取下げとしました。

ところが、その後も、担当委員会がこの課題の検討を継続してくれて、1年1回ではあるけれど、高齢の方々に配慮した主日礼拝を

献げようと提案してくれました。9月最後の主日礼拝をこの礼拝として今年4年目になります。この日の礼拝のため、長期に亘って礼拝に与っていない高齢の方々にお出でになれるか問合せをし、移動手段等を確認します。緊急時の体制を整えます。聖餐式を守って1時間の礼拝になるよう工夫をします。本当に久しぶりの信仰の先輩たちを迎えての喜びの礼拝となります。

その日以外にも、教員が個人的に、施設に入っている教員を日曜日の朝迎えに行き主日礼拝にお連れし、帰りにまた施設まで送り届けるということが少しずつ行われてきました。先日は病院の介護システムを利用して家族に付き添われて、身を起こすことのできない体で主日礼拝にお出でになり聖餐に与ってゆかれた若い兄弟がおりました。この兄弟は、その週に逝去し召されました。

小さい営みながら当初目的としたことが実現している不思議を思います。地上の生涯の最後まで礼拝を献げたい。それは信仰者として当然の願いでしょう。これを教会としても、主にある兄弟姉妹としても、家族としても全うさせてあげたい。なお祈りと工夫が必要だ、と思います。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・今年の伝道月間も、駅貼りのポスターをみてお出でになった方々がありました。愛餐会も盛況でした。私たちにあって伝道の大切さを改めて強く感ずるときです。
- ・今回の聖書と讃美歌にまつわる話、若き日に主を覚える大切さを思いました。これから執筆をお願いする方々、よろしく願いたいします。
- ・夏本番。幼稚園やCSの行事が恵みに満ちたものでありますように。
- ・教会報へのご意見・ご感想をお寄せください。(井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分

聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時

入門講座 日曜日 午前9時30分

教会学校 日曜日 午前9時

(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)

*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。

聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会

〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂1-31-19

電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)

03-3723-3870 (ベテル幼稚園)

牧師 渡邊 義彦

協力牧師 松下 恭規